

未来連携メッセージ

総合メディア基盤センターが挑む「知的財産データベース化」と「eラーニング」。これらの実現には、学内組織との連携が不可欠です。今回、共同研究センターならびに教育学部教育実践総合センターより、未来に向けた連携メッセージをいただきました。

知的財産データベース化 「アーカイブデータベースの拠点」として

知的財産アーカイブ
プロジェクト構想

金沢大学共同研究センター教授 瀬領 浩一

私は、前職でイメージファイルの保管管理についての仕事をしてきました。その延長で考えたのが「金沢大学知的財産アーカイブプロジェクト」です。これは金沢大学の知的財産を効率的に管理し、学生や社会に対して研究・教育サービスの品質向上を実現することを目的としています。その仕組みは大学発の知的財産をデジタル情報で蓄積・保存し、検索・参照・出力できるネットワークシステムを構築するものです。

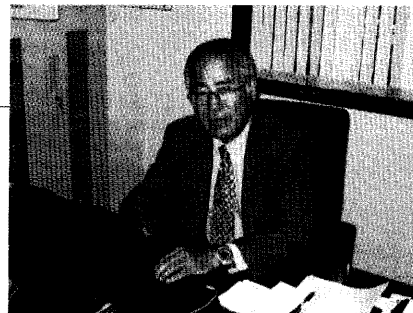
このプロジェクトにおいて総合メディア基盤センターには「アーカイブデータベース拠点」や必要モジュールの開発・導入という中心的役割を担ってほしいと考えています。この拠点は学内関連システムやeラーニングサーバーとインターフェースでつながり、ここで様々なデータを一括管理し

ます。また、各研究プロジェクトの進捗状況を文書で把握する仕組み、研究の承認文書の流れを制御し、承認プロセス（研究者の起案≫教授の承認≫知的財産本部へ登録）の状況を表示できる仕組みも必要となります。

共同研究センターはじめ知的財産本部、金沢大学ティ・エル・オー「KUTLO(キュトロ)」ではアーカイブデータベース拠点とつながって、特許管理だけでなく特許の出願から手続きまでのフローを一括管理したり、学内特許検索システムを構築する役割を担います。

この構想が進んでいくと各種資料をデジタル化したり、出力（オンデマンド）できる「アーカイブグラフィックセンター」のような機能も必要になります。

今後も知的財産管理については学内で議



瀬領浩一教授

論を重ねながらベストな方法を見つけていきたいと思います。

関連サイトへGO!

共同研究センター

<http://www.ccr.kanazawa-u.ac.jp/>

知的財産本部

<http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/chizai/>

金沢大学ティ・エル・オー「KUTLO(キュトロ)」
<http://kutlo.incu.kanazawa-u.ac.jp/>



eラーニング ニーズを把握し、形にしていく拠点に

教育学部教育実践総合センター助教授 中川一史

現在、私は文部科学省の依頼を受け、情報教育担当の先生たちを支援するeラーニングコンテンツの制作に携わったり、いろいろな場所でeラーニングについて学ぶ機会を持っています。

そこで感じることは、「学生にとって便利でニーズに合った教育を提供すること」を考えるよりも、コンテンツを制作することのみに重きが置かれているのではないかとことです。コンテンツに関しては、文部科学省や企業で様々な種類のものが制作されています。ならば、それらのコンテンツを活用するのも1つの方法だと思います。要は、まず、どういうニーズがあるのかを把握することが先決です。

金沢大学でeラーニングの取り組みを進めて行く場合にも、各部局から情報の責任

者を選出し、例えば「〇〇学部には〇〇の授業の中で〇〇のコンテンツが必要です」と細かく意見を出し合います。情報リテラシーひとつをとっても各部局ごとにニーズが違います。

そこで、総合メディア基盤センターには、情報責任者の人的ネットワークの中心に立って、eラーニングのニーズを把握し、形にしていく役割を担って頂きたいです。教育実践総合センターもそこに参画し、全国的なeラーニングの取り組み状況や方法論についての知識提供を行っていききたいと思います。

コンテンツ制作に関して言うならば、「見せ方」の専門家を総合メディア基盤センターで養成してはどうでしょうか。専門知識を翻訳してWeb上でわかりやすく効果的



中川一史助教授

に見せるにはどうしたらよいかを考えます。他との差別化を図る上でも、とても重要な役割です。

関連サイトへGO!

教育学部教育実践総合センター

<http://center.ed.kanazawa-u.ac.jp/>

教育学部

<http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/>

